



アカシア俳句会



秋季俳句会

(令和四年十月)

「句報」

「秋」の季語含む一〜五句

「選句」 赤文字：特選

「投句」作品

作者

以	福茂	福由徳恵敏	志光	由	福	展佑	圭福岩	志	敏岩	由徳恵博	岩	志秀	展亘茂博	由	茂敏	展	博	秀	
思ひ出は暖かき笑み師の訃報	墳(つか)の主名乗らぬままの秋の月	大和路の歌碑彩りて曼殊沙華	猫じゃらし塀の隙間の土僅か	ちちろ鳴く如何に炎暑を超えて来し	天狗風郷の小川に荻の声	阪神の勝てぬ夜長の飲み屋街	引かば鮒満ちて沙魚(はぜ)釣る郷の川	奥琵琶湖まん丸の月泳ぐなり	虫嫌う大家の庭にも鳴く地蟲	遙々と幸・歳かさね錦秋に	朝空に冴ゆる芙蓉や一日花	水面影秋風に揺れパステル画	轉りの満つる窓辺に柿たわわ	そぼ降りてしとど秋蝶陽を求む	バツタの子小さき影も生きてこそ	校舎裏鼻が覚えている花梨	鳴き鳴きて啼きて逝くのか秋の蝉	二百円孫を笑顔にする花火	命日やあの日と同じ鰯雲
中野亘子	中野亘子	中野亘子	中野亘子	中野亘子	戸堂博之	戸堂博之	戸堂博之	戸堂博之	戸堂博之	網 佑子	網 佑子	網 佑子	網 佑子	網 佑子	藤井光正	藤井光正	藤井光正	藤井光正	藤井光正
掛布団纏いまどろみ今朝の秋	僧逝きて寺内柘榴の涙粒	「来ましたよ」炎揺らめき秋彼岸	緋鶏頭母待つ空の青深し	月高く古城石垣のずら積	涼しさに夜々太りゆく中天の月	新米を土鍋に煮立ていざ味見	あと四日夜長に挑む十七音	吉澤志保子	吉澤志保子	吉澤志保子	吉澤志保子	加龍恵子	加龍恵子	加龍恵子	加龍恵子	加龍恵子	加龍恵子	吉澤志保子	吉澤志保子

以	以惠岩	福亘	以圭徳	恵敏	展圭亘	亘	佑亘	徳恵	秀	展茂博秀	由	光秀	佑徳志光	圭志	圭光	佑岩	博	佑														
巨星落つ輝く先輩桐一葉	永き友急いで逝くか秋さびし	秋晴れの予報を信じ濡れねずみ	立秋や思いで遣し友が逝く	育ちすぎコスモスの花仰ぎ見る	まつすぎな北海道路秋空へ	清秋や空抜け景色競走馬	北の秋籠もる長冬憂鬱に	女王は世界の秋に天国へ	名月やここ満月寺浮御堂	虹消えて琵琶湖を渡る秋の風	台風が去りて虫の音始まりぬ	やさしさを人に伝へし紅葉散る	俳友の次つぎ去りぬ秋の夜	曇り日のくもる心や草の花	秋茄子をふたりにて食む秋の夜	秋灯(あきともし)輝くノーベル平和賞	プーチンの終わりはじまる秋の朝	天高し吾旅立ちの鹿島宮	秋夕陽落つるを待ちて主人と吾と(つまとあと)	娘の肩たんとんと秋の宵	知らぬ間に手振り合わせて盆踊り	敬老日子と千波湖を一周す	秘め事も照らし出すよな今日の月	空きっ腹に空一面の鰯雲	ひつじ雲ばかりぽかりと昼散歩	筋雲や誰とどこまで行くのやら	秋晴れの二上山見て仲直り	脱殻や声の響けり法師蟬	水シヤワーぶるっと体感新涼かな	干乾びし花野や生氣通り雨	朱に群れり野良の一服秋彼岸	狭霧晴れ川面に陽光目覚めけり
西村敏治	西村敏治	西村敏治	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	都 福仁	吉田以登	吉田以登	野本展子	野本展子	野本展子	野本展子	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	野本展子	野本展子	野本展子	野本展子	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一	

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名

() 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、岩崎悦子(岩)、加龍恵子(恵)、楠野圭子(圭)、斎藤優子(優)、佐藤茂弘(茂)、
戸堂博之(博)、中野亘子(亘)、西田 稔(稔)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、藤井光正(光)、
前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、元永悦子(元)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)、
吉田以登(以)

編集人 前田秀一